

「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（案）

平成28年5月18日
教育課程部会 高等学校の
地歴・公民科科目の在り方
に関する特別チーム
資料13-2

項目構成（案）

重視する思考力, 判断力, 表現力等

問い と授業展開のイメージ

「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報システムの活用

- 地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力
- 考察したことを、目的に応じて地図等にまとめ、効果的に説明する力

(2) 国際理解と国際協力

ア生活・文化の多様性と国際理解

- 自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し、自他の文化を尊重しつつ考察する力
- 考察したことを、資料を踏まえて説明する力

イ地球的な諸課題と国際協力

- 地球規模で見られる諸課題（環境、資源・エネルギー、人口、食料、住居・都市、民族・領土等）について多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、根拠を明確にして議論する力

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア自然環境と災害対応

- 国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し、多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、資料にまとめて説明する力

イ生活圏の調査と持続可能な社会づくり

- 生活圏に見られる課題について、その背景や要因等の分析に基づき、様々な解決策を吟味し、構想する力
- 構想したことを、実現可能性を指標に議論する力

「地理的な見方や考え方」を用いた授業設計

問いを重視した授業展開

㉗ なぜ出生率と、人口増加率は一致しないのだろう

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを、GISを用いて階級区分図の重ね合わせを行い、その地域的な要因を考察する。〔他に、統計資料の分析、主題図の作成などの主題を設定〕

㉘ どうしてアンデスでは、湖上で生活する人々がいるのだろう

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から、湖上で生活する理由を見出し、生活の多様性とその必然性について考察させ、異文化理解を図る。〔他に、衣・食や宗教などの主題〕

㉙ なぜウガンダでは、生産性で劣る陸稲が生産されているのだろう

食料難に悩むウガンダに対して、どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り、国際協力の在り方について考察する。〔他に、地球温暖化対策などの主題〕

㉚ ハザードマップを読んで、私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域の自然環境の特徴を読み取り、その情報を比較、関連付けて、各地域で想定される災害を考え、地域ならではの対応策を考察する。〔他に、災害復旧・復興、都市計画などの主題〕

㉛ フードデザート解消のため、どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に、今後どのようなまちづくりを行うべきか、地域調査により収集した諸資料を分析し、分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。〔他に、環境対策などの主題〕

<補足；「学習の系統性, 段階性」>

- ・ (1)の学習によって培った地理的な技能を、後の(2), (3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- ・ (2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握, 考察したことを基に, 「イ」で議論, 構想する。
- ・ (2)で学んだ諸課題への対応策を, (3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)